

温泉の成分

- 1 源泉名村山温泉
- 2 泉質メタほう酸
- 3 泉温22.7℃
- 4 温泉の成分1kg中に含有する成分、分量及び組成

(1) 陽イオン					(2) 陰イオン				
成 分 名		ミリグラム	ミリバル	ミリバル%	成 分 名		ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
水素イオン	H ⁺	0.1未満	0.00	0.00	フッ素イオン	F ⁻	0.1未満	0.00	0.00
リチウムイオン	Li ⁺				塩素イオン	Cl ⁻	2.7	0.08	5.30
ナトリウムイオン	Na ⁺	29.2	1.27	90.15	硫化水素イオン	HS ⁻	0.1未満	0.00	0.00
カリウムイオン	K ⁺	0.4	0.01	0.73	硫化物イオン	S ²⁻	0.1未満	0.00	0.00
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺				チオ硫酸水素イオン	HS ₂ O ₃ ⁻			
カルシウムイオン	Ca ²⁺	2.0	0.10	7.11	チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻			
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	0.2	0.02	1.17	硫酸水素イオン	HSO ₄ ⁻	0.1未満	0.00	0.00
アルミニウムイオン	Al ³⁺	0.1未満	0.00	0.00	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	2.5	0.05	3.62
マンガン（Ⅱ）イオン	Mn ²⁺	0.1未満	0.00	0.00	メタ亜ヒ酸イオン	AsO ₂ ⁻	0.1未満	0.00	0.00
鉄（Ⅱ）イオン	Fe ²⁺	0.1未満	0.00	0.00	炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	57.5	0.94	65.38
鉄（Ⅲ）イオン	Fe ³⁺	0.2	0.01	0.84	炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	6.9	0.23	15.96
銅（Ⅱ）イオン	Cu ²⁺				メタケイ酸水素イオン	HSiO ₃ ⁻			
鉛イオン	Pb ²⁺				メタケイ酸イオン	SiO ₃ ²⁻			
亜鉛イオン	Zn ²⁺				メタホウ酸イオン	BO ₂ ⁻	5.3	0.12	8.65
カドミウムイオン	Cd ²⁺				水酸イオン	OH ⁻	0.3	0.02	1.10
ストロンチウムイオン	Sr ²⁺				リン酸二水素イオン	H ₂ PO ₄ ⁻			
バリウムイオン	Ba ²⁺				リン酸水素イオン	HPO ₄ ²⁻			
クロムイオン	Cr ³⁺				リン酸イオン	PO ₄ ³⁻			
陽イオン計		32.0	1.41	100.00	沃素イオン	I ⁻			
(3) 遊離成分 非解離成分					臭素イオン	Br ⁻			
					亜硝酸イオン	NO ₂ ⁻			
					硝酸イオン	NO ₃ ⁻			
					陰イオン計		75.2	1.44	100.00
成 分 名		ミリグラム	ミリモル						
硫酸	H ₂ SO ₄	0.1未満	0.00						
メタ亜ヒ酸	HAsO ₂	0.1未満	0.00						
メタケイ酸	H ₂ SiO ₃	22.0	0.28						
メタホウ酸	HBO ₂	0.1未満	0.00						
リン酸	H ₃ PO ₄								
非解離成分計		22.0	0.28						
					(4) その他の微量成分				
成 分 名					成 分 名		ミリグラム		
総砒素		As			総砒素		0.002		
銅イオン		Cu			銅イオン		0.005		
総クロム		Cr			総クロム		0.001未満		
総水銀		Hg			総水銀		0.0002未満		
鉛イオン		Pb			鉛イオン		0.001未満		
カドミウムイオン		Cd			カドミウムイオン		0.001未満		
亜鉛イオン		Zn			亜鉛イオン		0.010		
成 分 名		ミリグラム	ミリモル						
遊離二酸化炭素	CO ₂	0.1	0.00						
遊離硫化水素	H ₂ S	0.1未満	0.00						
溶存ガス成分計		0.1	0.00						
					溶存物質合計（ガスを除く）		0.13g/kg		
					成分合計		0.13g/kg		

浴用の方法及び注意

温泉の浴用は、以下の事項を守って行ってください。

1 入浴前の注意

- (1) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
- (2) 過度の疲労時には身体を休めること。
- (3) 運動後３０分程度の間は身体を休めること。
- (4) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、一人での入浴は避けることが望ましいこと。
- (5) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
- (6) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

2 入浴方法

- (1) 入浴温度
高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、４２℃以上の高温浴は避けること。
- (2) 入浴形態
心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
- (3) 入浴回数
入浴開始後数日間は、１日当たり１～２回とし、慣れてきたら２～３回まで増やしてもよいこと。
- (4) 入浴時間
入浴温度により異なるが、１回当たり、初めは３～１０分程度とし、慣れてきたら１５～２０分程度まで延長してもよいこと。

3 入浴中の注意

- (1) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
- (2) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。
- (3) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

4 入浴後の注意

- (1) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び３０分程度の安静を心掛けること（ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質（例えば酸性泉や硫黄泉等）や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと。）
- (2) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

5 湯あたり

温泉療養開始後おおむね３日～１週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

6 その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

そ の 他

1 泉温が低いため、加温しています。

- (1) 高温浴槽 ４２．０℃
- (2) 低温浴槽 ３６．０℃
- (3) 露天風呂 ４２．０℃
- (4) イベント風呂 ４０．０℃
- (5) 円形プール ３５．０℃
- (6) 圧注プール ３５．０℃
- (7) 運動プール ３５．０℃
- (8) 子供プール ３５．０℃
- (9) 気泡プール ３５．０℃

2 湯量が少ないため、加水しています。

3 低温浴槽に炭酸ガスを添加しています。

4 温泉資源保護及び衛生管理のため、循環ろ過装置を使用していますが、浴槽水は毎日換水しています。

5 衛生管理のため、循環ろ過の過程で塩素系薬剤を使用しています。